

## 御 挨拶

平成 15 年 4 月 1 日付で公立大学協会図書館協議会の会長館をお引き受けして後、総会をはじめとする各種の行事や活動をどうにか無事に遂行してまいりました。これも加盟館の皆様のご協力によるものと、心から御礼申し上げます。とくに、前会長館の東京都立大学をはじめ、役員館の皆様にはひとかたならぬご指導・ご鞭撻をいただきました。退任に際しまして、改めて感謝申し上げます次第です。

本協議会がここ数年取り組んできた重要な課題の一つは「電子ジャーナルコンソーシアム構築問題」ですが、学部構成や規模がきわめて多様で設置者も異なる公立大学の間でコンソーシアムを組むことには、国立大学にはない特有の困難さがあります。それでも、平成 15 年 4 月にようやく出版元 1 社とコンソーシアム( 試行版 ) ができました。来年度以降も、次期会長校や相互協力委員会を中心に、力を合わせて取り組んでいかなければならないと考えております。

しかし、来年度は、本協議会のあり方にも関わるさらに重大な課題に取り組まなければならないように思われます。本年 4 月には、国立大学の法人化がいよいよ実施に移されますが、1 年後の平成 17 年 4 月には、公立大学の中でもいくつかの大学が公立大学法人に移行するものと予想されるからです。平成 16 年 4 月に秋田県が設置する国際教養大学は、当初から公立大学法人として設立されることになっています。また、厳しい財政状況や大学間競争の激化から、大学の統合や連携強化の動きも活発です。神戸大学と神戸商船大学、東京商船大学と東京水産大学など、国立大学の間ではすでに統合を実現したところがありますが、公立大学の間でも、平成 16 年 4 月に、神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の三大学が統合して「兵庫県立大学」となるのをはじめ、東京都、大阪府、広島県などでも平成 17 年度を目処に、都立・府立・県立諸大学の統合が検討されています。

こうした公立大学の統合は、本協議会の加盟館数の減少をもたらします。いくつかの公立大学が法人化すれば、学部構成や規模、設置者の違いに加えて設置形態の違いという新たな多様性が持ち込まれることとなります。国立大学の法人化にともなって「ILL 文献複写等料金相殺サービス」が開始されるなど、公立大学図書館協議会として対応しなければならない新たな問題が生じていますが、公立大学図書館の足並みをそろえることがこれまでよりもさらに難しくなりそうなのです。

昨今の「大学改革」が何のためのいかなる改革なのか疑問なしとはしませんが、公立大学が大きな変革のうねりの中にあることは否定できません。地方財政の危機など困難な条件の下で自由で民主的な学問の発展に貢献しうる図書館を築き上げるには、さまざまな智恵と工夫を発揮することが必要です。公立大学図書館協議会が、そうした智恵と工夫を持ち寄る場としていっそう有意義な存在になることを願って、ご挨拶とさせていただきます。

平成 16 年 3 月

公立大学協会図書館協議会会長  
大阪市立大学学術情報総合センター  
所長 松田竹男